



在マレーシア日本国大使館付属ジョホール日本人学校

令和2年1月6日

学校通信 Respect

NO. 9

謹賀新年

校長 角 保 宏

保護者の皆様、新年明けましておめでとうございます。

マレーシア国内だけでなく、世界中の様々な国や各都市で、それぞれのご家族が楽しい年末年始を過ごされたことと思います。旧年中は本校教育活動に対しまして、格別のご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。心より御礼を申し上げます。

本日、全校児童生徒計58名で第3学期がスタートしました。今学期は何かと慌ただしく、月日の過ぎゆくのがとても速く感じられます。しかし、この1年間の「総まとめの学期」という重要な教育的意義があるということをお本校教職員は常に念頭に置き、月日が速く過ぎゆく第3学期であるからこそ、これまで以上に地に足のついた教育実践をめざし、教職員一同気を引き締めて日々の教育活動に邁進していきたいと考えています。

さて、年が明けると、不思議なことに誰も「何か新しく取り組んでみよう」といった気持ちが湧いてくるものです。『一年の計は元旦にあり』という言葉通り、今年一年間をどのように過ごすのかといった見通しを、この時機に考えることは非常に重要です。昨年一年間の出来事を今一度じっくりとふりかえり、新たな目標を立てる。この「ふりかえり、みとおす」という自然な心の営みは、昔から人々の生活に大変重要な意味と役割を果たしてきたと思われまふ。つまり、昨年一年間の生活に、ひとまず「区切り」をつけ、昨年一年間の生活の流れをまとめて整理したあとに、新たな年の見通しを立ててみる。そうすることによって、人はより豊かで明るい未来をみずからめざそうとしてきたのだと思います。「正月事始め」や「お正月飾り（門松、しめ縄、鏡餅）」あるいは、「除夜の鐘」、「初詣」といった年末年始に行われる日本古来の伝統的な習わしは、先人の豊かな知恵がもたらした自然発生的な文化や風習であると感じまふ。

そこで、本日の始業式において全校児童生徒に対し、『新しい年を迎え、新たな気持ちで、今年一年こんなことを頑張ってみようといった目標を立て、それに向かって日々努力するとともに、授業日数が最も少ない第3学期の学校生活を大切に過ごしてほしい』といった内容の講話をしました。

すべての子供たちがこの一年間、大きな夢をもち続け、新たな目標の実現に向けて元気いっぱいたくましく学校生活を過ごしてほしいと願っています。

本年が皆様にとって、すばらしい良い年になりますようお祈り申し上げますとともに、本校教育活動に対しまして、昨年までと変わらぬご理解とご協力の程、よろしくごお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。